

木の日の研修「クモの魅力」

【開催日時】2020年11月5日(木曜日) 19:00~21:20

【開催場所】リモート(ZOOM)

【主催者】森林インストラクター東京会 (FIT30 みわの会)

【一文紹介】

クモの捕獲戦術動画を見ながら解説

【公開記事】

クモは種類の多い昆虫を捕らえるために工夫し進化しました。そのクモの捕食戦術の色々をご紹介します。網を張るクモはクモ全体の約半数で、獲物の振動で感知するため一般的に目はあまり発達していません。毒を注入し中心に獲物を持って行って食します。中心に獲物を持っていくのは情報がキャッチしやすいためのようです。

その他のクモの戦略を紹介します。

「ヤマシログモ類」は口から粘液を出し獲物を捕らえます。

「ハエトリグモ」は異常に発達した視力とジャンプ力で獲物を捕らえます。

「ジグモ」は地中から地上にかけて「管状住居」を造って待ち伏せ袋を破って獲物に咬みつきます。

「ヒラタグモ」は四方八方に「受信糸」をレーダーのように張って獲物を捕らえます。

「ヒメグモ類」は地面に接する部分の糸だけに粘着力があり歩行してきた虫をクレーンのように引っ張り上げます。

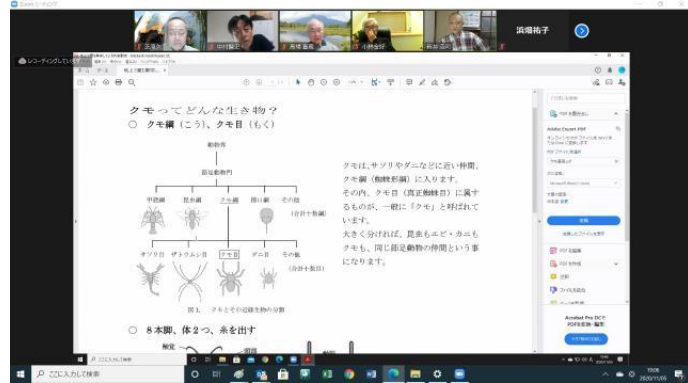
「カニグモ類」は花や葉などでひたすら待ち伏せて蜜を吸いにきた獲物を抱え込んで捕らえます。

「タナグモ類」のクモの網は棚、管状住居、迷網と3つの構造からなっています。

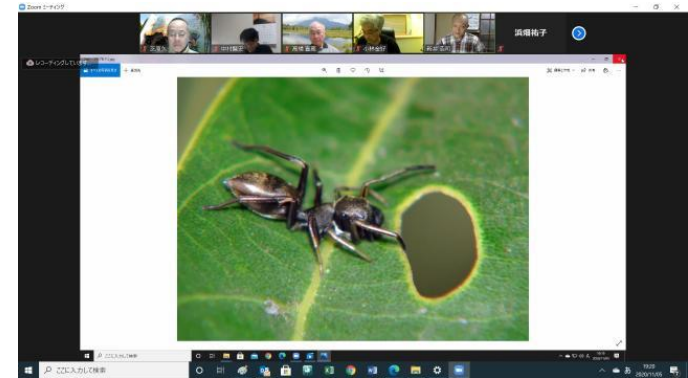
「トタテグモ類」は穴を掘って糸で裏打ちをした扉を造り、いきなりビックリ箱のように飛び出して獲物を捕獲する原始的な仲間です。

「ハシリグモ類」は水上を自由に走り回ることができ、水中のオタマジャクシやカエル等も捕えてしまうことがあります。

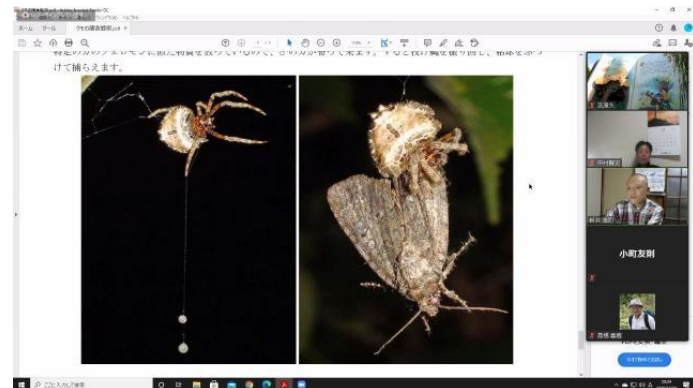
「イセキグモ類」は夜行性の投げ縄蜘蛛として知られ、粘球の付いた糸をぶら下げ獲物が来るとその糸を投げ縄のように振り回し捕えます。



クモってどんな生き物？



このクモは？



このクモの戦略とは！！

「クモ喰いクモ」はクモを食べるクモです。その捕食方法も色々あります。

「オナガグモ」は枝に1~2本の糸を張り、他のクモがそれを伝わっていくとおしりの糸疣から粘糸を投げつけ捕えます。また他のクモの網に自ら侵入して捕食するクモもいます。

「ヤリグモ」は粘着力のある糸を絡め、「ヤマトカナエグモ」は自分の5倍以上もあるクモにも咬みついて捕食します。

クモ喰いクモの中で最強といわれている「センショウグモ」はそろりそろりとクモに近づき至近距離から咬みつきます。クモの多岐に亘る捕獲方法を動画で説明してもらうことでクモへの興味と愛着が湧きました。

また森林インストラクターとして引き出しが一つ増えたように思います。

新井先生の動画はその撮影の苦労も大変なものであったと思われまます。

F I Tの皆さんへの貴重映像の提供を感謝いたします。

以上です。



新井浩司 先生



Zoom 研修の様子 その1



Zoom 研修の様子 その2



Zoom 研修の様子 その3



質疑対応の様子

【参加人数】73名(内訳 FIT・友の会)
【報告者名】日比 典子(30期 みわの会)
【報告写真枚数】8枚